

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	いきるちから2		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5領域を意識した集団レクリエーションを毎日継続して実施している。	<p>○同じ目的を持ちながらも、工夫を凝らして子ども一人ひとりに応じた取り組みを考えている。</p> <p>○未就学児から就学児まで年齢の幅はあるが、同じ活動の中でもそれぞれに適したハードルを設け、一人ひとりに合わせた対応を心がけている。</p> <p>○毎日継続して取り組むことで、子どもたちへの浸透力を高めることにも繋がっている。</p>	<p>○日々の活動を通じて、一人ひとりの子どもたちの課題や特性を理解し、遊びの中でそれぞれに適した課題を設定できるよう意識していく。</p> <p>○保護者の皆さまとの情報共有を積極的に行い、共通の認識を深めることで、ともに考え、同じ目標を持てる環境づくりを目指す。</p>
2	子ども同士がお互いを尊重できる関係性を築けている。	<p>○子どもたちが自分たちでできることや解決できることは、なるべく子どもたち自身の力で解決できるように職員がサポートしている。</p> <p>○職員はサポート役に徹し、子どもたちが状況をしっかり理解できるよう丁寧に説明を行ったうえで、自分で考え、判断することを促す関わりを大切にしている。</p> <p>○子どもたちの相手のマイナス面をプラスに変えられるような声掛けやサポートを心掛けている。</p>	<p>○集団レクリエーションを強化し、遊びの中で子どもたちが積極的にチャレンジできる機会を増やす。</p> <p>○子どもたちが主体的に行動できるよう、環境設定や声掛けに工夫をして、子どもたちの自主性や協調性を育む取り組みを行う。</p>
3	様々な経験を持った職員が専門知識を活かし、子どもたちに幅広く関わりを持つことができています。	<p>○各自の経験やスキルを活かし、子どもたちに多様な活動を提供することができています。</p> <p>○職員間で情報共有をすることにより、知識やスキルの向上にも繋がっている。</p>	<p>○定期的な研修を実施し、職員の知識やスキルを深めることで、支援内容の充実を図っていく。</p> <p>○職員全体のレベルアップを促進し、より質の高い支援を提供できるよう努めていく。</p>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の交流が少ない。	<p>○情報収集不足のため、必要な情報が十分に得られず、情報量が限られている状況である。</p> <p>○交流活動後にその成果を継続的な取り組みに結びつけられていないため、活動の効果が持続しないという課題も抱えている。</p>	<p>○情報収集に力を入れ、地域交流に関する情報を積極的に集めていく。</p> <p>○集めた情報は、イベント後のお知らせとしてまとめ、活動の認知度を高めていく。</p>
2	ペアレントトレーニングの取り組みや保護者参加型のイベントが少ない。	<p>○面談時には個々の相談援助を行っていますが、ペアレントトレーニングに関する知識が不足しており、専門的なサポートを十分に提供できていない。</p> <p>○家族参加型のイベントは実施していますが、定期的な開催が難しい状況であり、さらに保護者の参加意向には偏りがあり、小学生以上の保護者の参加率が低い傾向がある。</p>	<p>○職員はペアレント・トレーニングに関する研修を受講し、専門知識を習得する。</p> <p>○保護者の方々に適切な交流方法を提供できるよう努めていき、交流が苦手な方には、少人数での交流や職員との個別面談から始めるなど、個々のニーズに応じたサポートを心がけていく。</p>